

国際戦略アドバイザーからの助言への対応について

統計数理研究所運営企画本部評価室

統計数理研究所では、2021 年度国際戦略アドバイザーを Chun-houh Cheng 博士（台湾中央研究院統計科学研究所所長）に、2022 年度国際戦略アドバイザーを Gareth W. Peters 博士（カリフォルニア大学サンタバーバラ校教授）に委嘱し、研究所の研究活動や運営に関する評価と助言を含んだ報告書を頂いている。

ここでは、情報・システム研究機構第 4 期中期計画 P43 に従い、国際戦略アドバイザーないし国際アドバイザリーボードからの報告・助言を踏まえた対応状況を公表し、毎年度更新する。

| 助言内容等の要約 | 対応状況等 |
|--|-------------------------------|
| 先端データ科学研究系の設置に向けて、既存のデータ科学研究系はどうするのか？ | 対応すべき案件と認識。令和 5 年度対応予定。 |
| 連携先の国際的組織、国際共同利用・共同研究に係るスキームに対する予算支援を、複数年の予算支援とともに提示すべき。 | 検討すべき案件と認識。令和 6 年度対応予定。 |
| 既存の NOE 型研究センターを方法論型と分野型に再編するのはよいことである。しかし対象となる方法論及び分野はあるのか？ | 検討すべき案件と認識。令和 5 年度以降に対応予定。 |
| ISM はすでに世界で最先端のスパコン機能を有する研究機関であり、国内外の産官学連携を行ってきている。関連するスパコン設備の高い利用率を維持することが必須であり、様々な側面で利用率の継続的なモニタリングは行うべきである。 | 対応すべき案件であり、モニタリングは継続的に実施している。 |
| 戦略的に優先順位の高い共同研究事業に関して、少なくともその事業に係る活動／成果の要旨等、何らかの評価が必要ではないか？ | 対応すべき案件と認識。令和 6 年度以降に対応予定。 |
| 新たな国際共同研究・共同利用事業の選定に関する基準はあるか？ | 対応すべき案件と認識。令和 5 年度に対応。 |
| ISM は国内外組織と MoU を最も多く締結している学術機関の一つであり、潜在的連携先と MoU を締結し続けるべきである。但 | 検討すべき案件と認識。 |

| | |
|--|--|
| し、研究者交流、国際研究の提案数、事業数、研究論文発表数といった様々な側面から、過去と現在の MoU を評価すべきである。 | |
| 若手研究者の国際交流は、時空間分布で図示すべきである。過去の構造を示し、今後の配置を計画する上で、MoU/国/研究者ネットワークを評価したノードリンク図またはヒートマップが適していると思われる。 | 検討すべき案件と認識。 |
| 全研究系において女性研究者の比率が低い。STEM サイエンスでは既知の問題であるが、ISM においても女性研究者を増やすことを検討すべきである。 | 検討すべき案件と認識。 |
| ISM で行われている素晴らしい研究へのアクセスとインパクトを高めるために、ISM の主要な研究者一人一人の研究がより可視化されること、すべての教員が Google Scholar のプロフィール（そうすれば H-index, I-index, 被引用率が容易に維持できる）、Research Gate, SSRN のプロフィールを積極的に活用することを含めて提案する。それにより、より大きなインパクトが示され、どの研究でどの研究分野にインパクトを与えているか、どの論文にそれが引用されているかなどがより認識されるようになるだろう。 | 対応すべき案件と認識。モニタリングコストとのトレードオフを勘案し検討を行う。 |

(参考)

大学共同利用機関法人 情報・システム研究機構 第4期中期目標・中期計画

https://www.mext.go.jp/content/20230331-mxt_hojinka-000028693_86.pdf より抜粋

†P43 委員の半数以上を外部委員とする運営会議・共同利用委員会等の諸会議体やアドバイザーボードを開催することにより、研究者コミュニティ等の意見を研究所運営に適切に反映させるとともに、その運営状況について、デジタル技術を積極的に活用した様々なツールによる情報発信を行う。

評価指標(3) 各研究所で組織化されている、外国人有識者を含むアドバイザーボードからの報告・助言を踏まえた、研究所運営に関する取組等の検証を年1回以上実施し、その対応・反映状況を毎回公表する。

以 上